



平成28年度
機械工業振興補助事業
公益事業振興補助事業
補助事業実施に関する事務手続要領
別冊 「補助事業評価事務手続要領」
.....

公益財団法人 J K A

目 次

はじめに	1
I JKA 補助事業の評価について	2
II JKA 補助事業評価の手順	3
III 自己評価の実施	4
1. 自己評価の流れ	4
2. 自己評価(1回目)について.....	5
3. 自己評価(2回目)について.....	6
IV 自己評価書の記入にあたって	7
【事前計画／自己評価書（4／5）】 記入例・作成の注意事項	8～
福祉車両の整備／機器・検診車の整備	8
建築／補修	10
調査・分析・研究開発(研究補助).....	12
調査・分析・研究開発	14
イベント開催	16
事業・サービス	18
【事前計画／自己評価書（5／5） 事業の促進・阻害要因の自己分析】 記入例・作成の注意事項	20～
V 平成28年度 JKA 補助事業「自己評価スコアリングガイド」.....	22～
(様式見本) 事前計画／自己評価書	24～
事前計画／自己評価書(1／5)～(3／5)	24
事前計画／自己評価書(3／5)計画変更用.....	24
事前計画／自己評価書(4／5)・(5／5)	25

－ はじめに －

本財団では、JKA補助事業の透明性、効率性を確保するとともに、JKA補助事業の更なる向上を図るため、外部の学識経験者及び有識者からなる機械振興補助事業審査・評価委員会及び公益事業振興補助事業審査・評価委員会(以下「審査・評価委員会」という。)を設置して、JKA補助事業の評価を行い、その結果を公表することとしています。

補助事業者には、補助事業完了後、事業の実施状況及び「事前計画」で設定した指標及び目標値等の達成状況を「自己評価書」により自ら確認・評価していただきます。

「自己評価」では、事業の実施結果、成果の測定・確認にとどまらず、その要因（なぜ事業をうまく実施できたのか、あるいは何が問題で計画通りに事業実施ができなかったのか。）も併せて確認・分析することで、事業の課題等がより明確になりますので、結果を補助事業者自らの今後の事業の改善等に役立てていただければ幸いです。

本財団は、補助事業者の「自己評価」を基に、JKA補助事業の評価を行い、JKA補助事業全体の改善、向上に役立てます。

○ 「自己評価」は、後述のとおり「事前計画／自己評価書」により行っていますが、「事前計画／自己評価書」に記入された内容は、補助事業改善のための統計資料等に使用するとともに、評価結果は公表の対象となりますので、作成にあたっては、次の各点にご留意ください。

- ・ 内容を簡潔かつ明確に、過不足なく記入するようにしてください。
- ・ 専門用語、業界用語の使用を避け、わかり易い言葉を使用し、初めて読む方にも理解し易い説明、文章を心がけてください。

○ 成果の広報について

補助事業者自ら、補助事業の成果について十分な広報に努めるとともに、JKAが行う補助事業の成果発表(審査・評価委員会等におけるプレゼンテーション、補助事業広報誌掲載等)や補助事業アンケートへの回答等、成果の広報にご協力くださいますよう、お願いいたします。

問い合わせ先	公益財団法人 JKA 補助事業部 補助事業統括室 〒102-8011 東京都千代田区六番町4番地6
電話番号	直通 03-3512-1279 FAX 03-3512-1274
問い合わせ時間	平日の 9時30分 から 12時まで 13時 から 17時30分まで
URL	http://ringring-keirin.jp
Email	m28hyoka@keirin-autorace.or.jp (H28年度補助事業 機械工業振興 専用) p28hyoka@keirin-autorace.or.jp (H28年度補助事業 公益事業振興 専用)

I JKA補助事業の評価について

1. 目的

J K A補助事業の評価は、個々の補助事業者が補助方針に沿って行う事業や活動に対して、その補助事業の内容の結果・成果を検証し、補助事業の改善と発展を目指します。また、評価結果をとりまとめて公表することにより、社会的な説明責任を果たす一助とします。

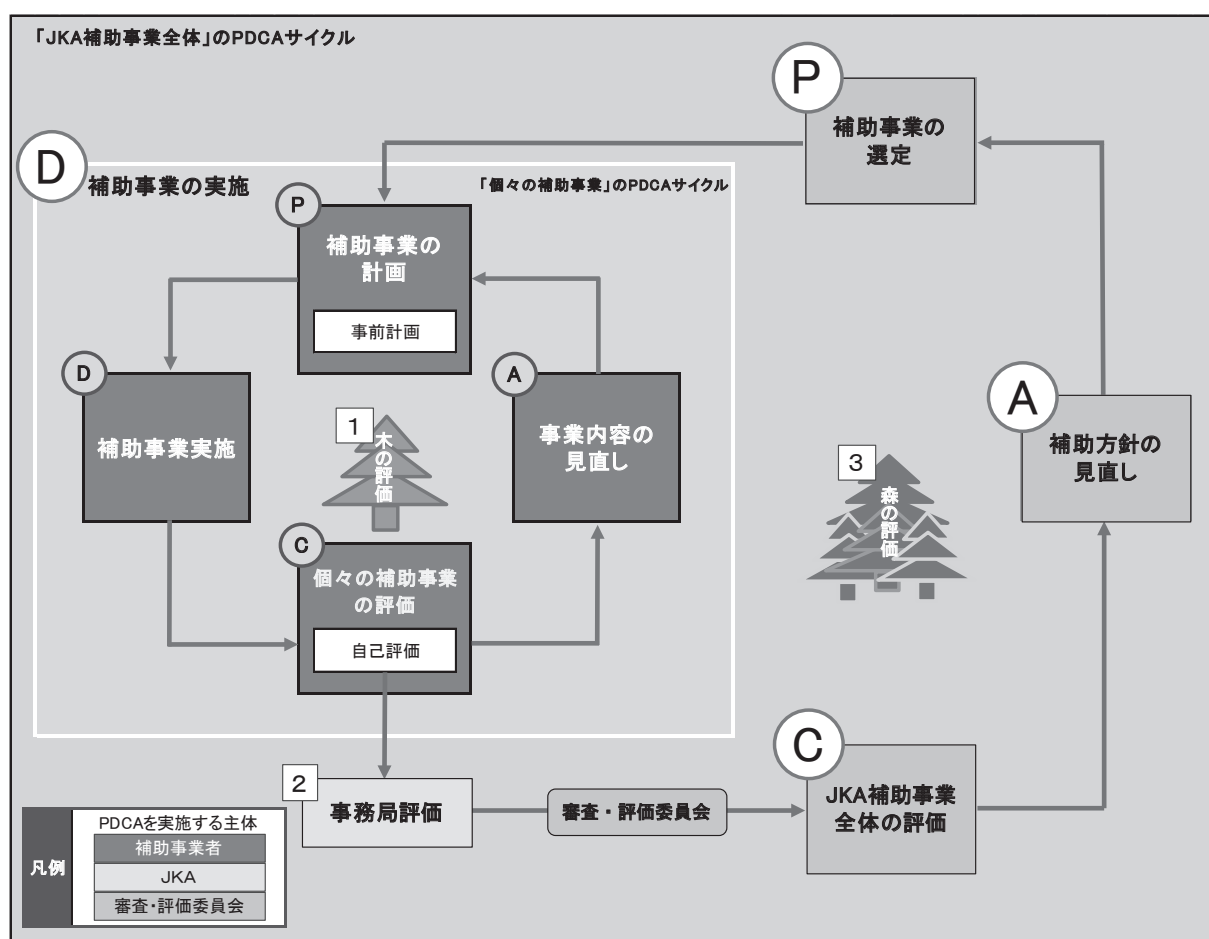
2. 実施方法

下に示す「木」の評価と「森」の評価の2つの枠組みで評価を行い、それぞれにP D C Aサイクル※を回すことにより補助事業全体の向上を図ります。

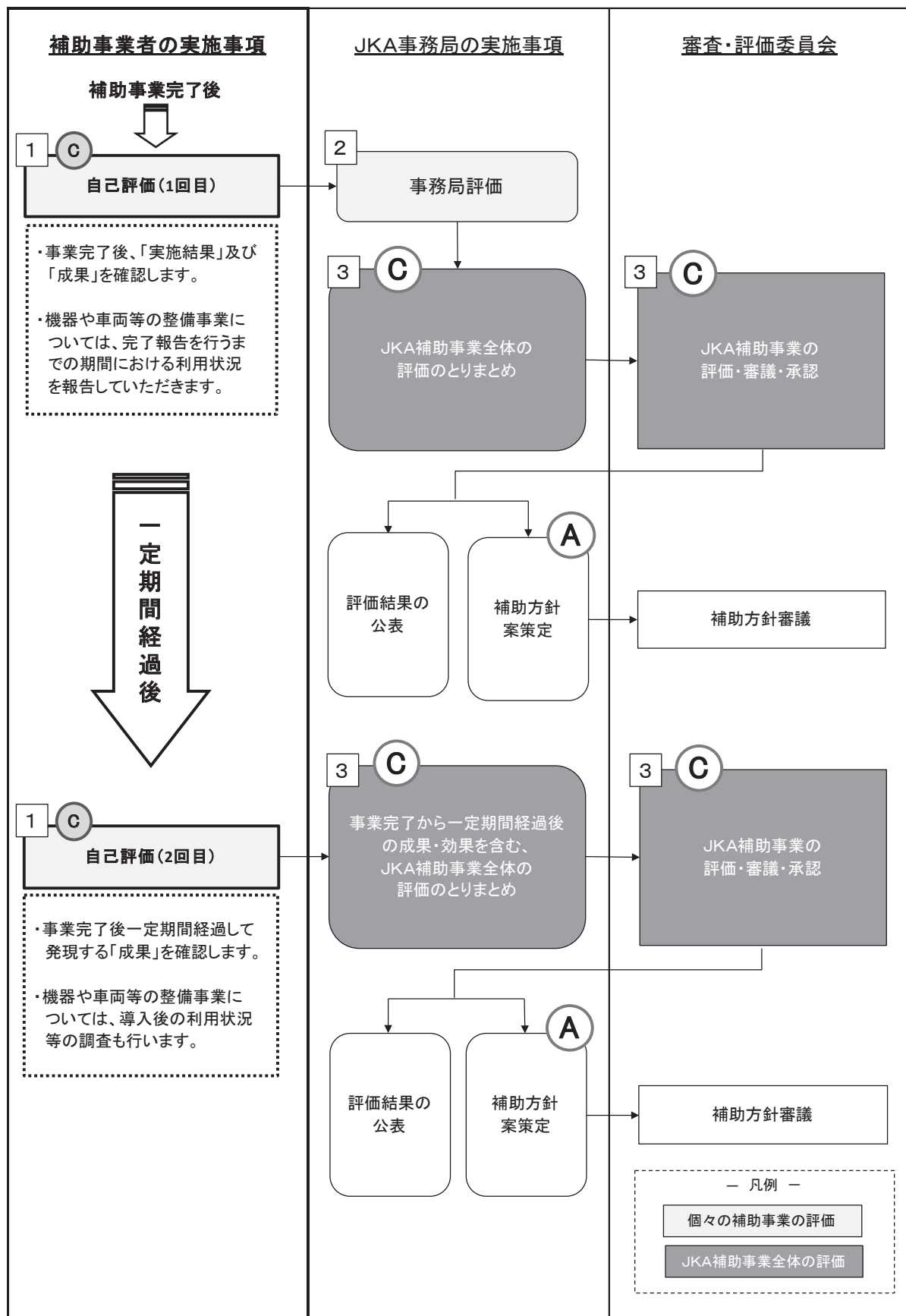
1 木の評価	個々の補助事業者が、予め定めた事前計画を事業完了時にどの程度実現できたか、その促進・阻害要因を把握し、目標達成状況等を自ら評価するものです。
2 事務局評価	J K Aが、木の評価（事前計画／自己評価書の内容）等をもとに、事業の達成状況や広報状況を評価するものです。
3 森の評価	木の評価及び事務局評価をもとに、事業分野を取り巻く課題の整理・検証を行い、J K A補助事業の改善と発展を目指すための評価です。

※ P D C Aサイクルとは？

計画（Plan）→実行（Do）→評価（Check）→改善（Act）のステップを繰り返すことによって、継続的な業務改善を推進するマネジメント手法です。



Ⅱ JKA補助事業評価の手順



Ⅲ 自己評価の実施

1. 自己評価の流れ

自己評価の実施

- ・自己評価は、捉えるべきポイントに合わせて、**2回実施**していただきます。

※実施内容、提出時期が異なります。



自己評価書の作成

- ・補助金交付申請時に提出された「事前計画／自己評価書」(1／5)～(3／5)記載の事前計画を基に、1回目、2回目それぞれの評価様式に、評価結果をご記入いただきます。



自己評価結果の提出

- ・電子メールにて、ご提出いただきます。
(1回目については、補助事業の完了報告書にも添付していただきます。)

*** 自己評価実施にあたっての注意事項 ***

1. 「事前計画」との対比

自己評価は、「事前計画」と実際の事業の実施状況を対比して実施してください。
やむを得ず、補助金交付申請後に事業計画を変更した場合は、別に提出した「事前計画／自己評価書(3／5)計画変更用」と対比してください。

2. 達成状況の記載方法

目標値、達成値を数値ではなく文章で表した場合においても、その達成状況はパーセンテージでご記入ください。

3. 採点欄のある評価項目

採点欄のある評価項目は、各人の主観で採点するのではなく、P22、23の[平成28年度JKA補助事業「自己評価スコアリングガイド」]を基準に採点してください。

4. 評価体制

評価は、補助事業に係わる特定の担当者や組織だけではなく、なるべく利用者や参加者などの幅広い受益者、外部の第三者なども加わって行われることが望まれます。

※「評価委員会」が組織されることがより望ましいです。

特定の関係者のみで自己評価を実施しなければならない場合でも、それ以外の関係者に対して、ヒアリングやアンケートを実施するなど、信頼できる自己評価に努めてください。

5. 評価過程の記録

評価にあたっては、議事録の作成、アンケート結果を集計する等、評価過程を必ず記録してください。(自己評価結果の提出の際には、この記録も併せてご提出いただきます。)

2. 自己評価(1回目)について

自己評価(1回目) 全事業共通		
実施 作成	評価時期	事業完了後
	評価内容	① 補助事業の実施状況、事業の実施結果及び事業完了後完了報告を行うまでの期間に発生する成果(改善効果等)を確認し、 <u>事前計画と対比して評価</u> する。 ② <u>事業の促進・阻害要因の分析</u> を行う。
	評価様式	事前計画／自己評価書(4／5)・(5／5)(※1)
提出	提出時期	事業完了後 2 ヶ月以内
	提出書類	・事前計画／自己評価書(1／5)～(3／5) Excel ファイル(※2) ・事前計画／自己評価書(4／5)・(5／5) Excel ファイル ・評価過程の記録
	提出方法	Eメール・郵送(※3)
	提出先	機械工業振興事業課 公益・福祉振興事業課 各担当者

(※1)・「事前計画／自己評価書」(4／5)・(5／5)は、本財団補助事業 Web サイト『RING!RING!プロジェクト』内、『事務手続要領・提出書類』の各事業分野の『完了報告書』より、Excel ファイルをダウンロードしてください。

・複数の事業項目から構成される事業を実施した場合は、交付申請した事業項目毎に作成してください。

(※2)・「事前計画／自己評価書」(1／5)～(3／5)は、**交付申請時**に作成した書類です。

・補助金交付申請後に事業計画を変更した場合は、別に提出した「事前計画／自己評価書(3／5)計画変更用」も併せて提出してください。

(※3)・1回目の評価結果は Excel ファイルをEメールに添付して提出するほか、プリントアウトしたものを「補助事業の完了報告書」に添付して提出してください。

3. 自己評価(2回目)について

自己評価(2回目) 事業形態別			
事業形態	事業分野	評価・提出時期	
A 福祉車両の整備	福祉車両(公益)	平成 29 年 8 月頃	<p>・評価内容については、評価様式をご覧ください。</p> <p>・評価様式は、本財団補助事業 Web サイト『RING!RING!プロジェクト』より Excel ファイルをダウンロードしてください。</p> <p>・計画変更の承認を受け、完了時期を延期した事業については、評価時期が異なります。事業完了後、個別にご案内いたします。</p> <p>・提出方法は評価過程の記録とともに、下記送信先※まで、<u>Excel ファイル</u>を E メールに添付してご送信ください。</p>
B 機器・検診車の整備	公設[機械設備](機械)	平成 30 年 4 月頃	
	検診車(公益)		
	医療機器(公益)	平成 30 年 1 月頃	
	福祉機器(公益)		
C 建築	建築(公益)	平成 30 年 1 月頃	
E 調査・分析・研究開発(研究補助)	単年度研究(機械)	平成 30 年 3～4 月	
	複数年度研究(機械)	平成 31 年 3～4 月	
E 調査・分析・研究開発	振興事業(機械)	平成 30 年 3～6 月	
	公設[人材育成・共同研究](機械)		
F イベント開催	事業費(公益)		
	新世紀未来創造プロジェクト(公益)		
G 事業・サービス	東日本大震災復興支援(公益)		

事業形態「D 補修」に該当する事業は、2 回目の自己評価は行いません。

※送信先 補助事業統括室 平成 28 年度補助事業評価担当

メールアドレス (機械工業振興補助事業専用) m28hyoka@keirin-autorace.or.jp
(公益事業振興補助事業専用) p28hyoka@keirin-autorace.or.jp

Ⅳ 自己評価書の記入にあたって

交付申請時に記入した「事前計画/自己評価書」の事前計画を振り返り、自己評価を実施します。

次ページから、「事前計画/自己評価書」(4/5)・(5/5)の記入例・作成の注意事項があります。

・(4/5)は要望申請時に選択した事業形態の分類項目別になっています。

・(5/5)事業の促進・阻害要因の自己分析は、全分類項目共通です。

自己評価書(4/5)

分類項目	ページ
【福祉車両の整備／機器・検診車の整備】……▶	8.9
【建築／補修】……………▶	10.11
【調査・分析・研究開発】(研究補助)……………▶	12.13
【調査・分析・研究開発】……………▶	14.15
【イベント開催】……………▶	16.17
【事業・サービス】……………▶	18.19

自己評価書(5/5)事業の促進・阻害要因 自己分析

全分類項目共通 ……………▶	20.21
----------------	-------

【福祉車両の整備/機器・検診車の整備】福祉車両・検診車・機器・公設[機械設備]

<交付申請>

28-〇-〇〇〇 (福)◎◎◎福祉会 [1]

福祉車両(移送車3)の整備

別紙・JKA補助事業 平成28年度 事前計画/自己評価書(3/5)

4. 補助事業の事前計画

補助事業			
(1) 受益者 (ニーズ)	受益者)施設利用者 (ニーズ)現在、送迎用に使っているレンタル車両は平成27年10月に返却することになっており、早急に新規に車両の導入が必要となる。今回車両を導入することにより、生活介護(通所)利用者の方を引続き安全かつ快適に送迎を行うことができる。また、現在使用の車両と比べ定員が多くなるので、今まで通所困難のため施設利用が出来なかった方の車両での送迎に配慮ができる。		
(2) 事業内容	福祉車両の種類 移送車4 定員8名 メーカー名 〇〇〇 車名 〇〇〇 排気量 〇〇〇 使用する施設 生活介護通所施設〇〇〇〇〇 用途 施設利用者の週5日の送迎及び外出支援、施設の行事での外出等を使用。		
事業の新規性	現在、送迎用に使っているレンタル車両は平成28年10月に返却することになっており、早急に新規に車両の導入が必要となる。今回申請の車両は、現在使用している車両よりも定員が多いため、一度に大勢での乗車が可能となり、時間に余裕のある送迎体制が整う。		
事業の発展性	車両の定員増により施設の新規利用者拡大も考えられる。また、一度に大勢での外出が可能となり、現在行っている利用者の外出支援以外にも、地域の行事への参加も可能となり、地域との交流が増える。		
実施計画	予算等	【事業の完了時期】 平成28年9月20日 【スケジュール】 別添1: 補助事業の概要のとおり 【予算】 事業経費比較表のとおり	
	実施場所	〇〇県〇〇市〇〇1-1-1 社会福祉法人◎◎◎福祉会	
	実施体制	車両導入に際しては、運転手や介護スタッフを含む職員で導入検討委員会を開催し、スムーズに導入できるよう努める。利用にあたっては、車両管理スタッフを〇人増員し計〇人とし、より円滑な車両の運用ができる体制にする。	
(3) 達成目標	事業の実施結果	[指標] 導入時期	[目標値] 平成28年9月
			[具体的内容] 現在使用している車両のリース契約が9月末で終了するため、スムーズに10月から新しい車両で送迎が開始できるよう、9月中の導入を目指す。
	事業の成果・波及	[指標] 延利用者数(週平均)	[目標値] 80人
			[具体的内容] 現在の送迎利用者6人の送迎で週5日使用する他、施設利用者の外出支援にも使用する予定。
(4) 情報発信	事業の結果	[指標] 1.機関誌掲載回数 2.HP掲載回数 3.〇〇新聞掲載回数	[目標値] 1.1回 2.2回 3.1回
			[具体的内容] 1.車両導入後、新しい車両の紹介記事を掲載し、関係者や公共施設等に配布する。 2.車両導入前と後の2回、誰でも目にできるよう、法人HPに掲載する。 3.車両導入翌月の〇〇新聞に事業の実施について掲載する。
	競輪・オートレース補助金による事業であること	[指標] 1.機関誌掲載回数 2.HP掲載回数 3.〇〇新聞掲載回数	[目標値] 1.1回 2.2回 3.1回
			[具体的内容] 1~3. 上記の情報発信時には、常にオートレース補助金による事業であることを明示する。
(5) 自己評価の体制	施設利用者等に関き取り調査を行い、利用者や地域住民を含む評価委員会を開催し、車両の導入について評価を行い、法人機関誌にて公表する。		

インターネットDL版

<交付申請>

28-〇-〇〇〇 (福)◎◎◎福祉会 [1]

福祉車両(移送車3)の整備

別紙・JKA補助事業 平成28年度 事前計画/自己評価書(2/5)

(2) 補助事業の直接的な目的

補助事業の結果(アウトプット)、成果(アウトカム)の直接的な効果により達成を目指す、補助事業の直接的な目的を記入してください。

補助事業の直接的な目的

継続して車両による送迎を行うことができ、利用者も継続して慣れている福祉サービスを利用できる。また、安心安全な対策を講じた車両にて送迎サービスを行うことで、利用者とその家族、介護者の負担を軽減することが可能となる。さらに、今以上に地域行事への利用者による参加が可能となり、地域との交流を深めることができる。

インターネットDL版

事前計画(3/5)及び(2/5)を振り返り、自己評価を実施してください。

福祉車両・検診車・機器・公設[機械設備]【福祉車両の整備/機器・検診車の整備】

<自己評価1回目>

補助事業番号 28 - 0 - 000 補助事業者名 (福) ◎◎◎福祉会 項番 1 / 総事業項目数 1

補助事業番号と補助事業者名を記入
別紙「JKA補助事業」平成28年度 事前計画/自己評価書(4/5)

5. 補助事業の自己評価
自己評価書作成日と作成者名を記入
作成日 平成 28 年 10 月 15 日 作成者 〇〇 〇〇〇

(a) 個別項目評価

●個別の評価項目について、(3/5) 4. 事前計画 の達成状況等を把握し、分析・評価してください。

(1) 受益者 (ニーズ)	2回目の自己評価時に評価してください。(記入様式は別用紙になります。)				採点
(2) 事業内容	<p>予定どおり、移送車4(定員8名)を導入した。入れもうまくいき、計画よりも早い納車となり、予定どおり生活介護(通所)での週5日の送迎に使用している。今後、施設や地域から利用できる。</p> <p>事業の新規性または継続の必要性 2回目</p> <p>事業の発展性 2回目</p> <p>実施計画・体制 入札等が順調に進み、無事導入することができた。また、車両管理スタッフを○人増員し計○人とし、より円滑な車両の運用ができる体制にした。</p>				採点
(3) 達成目標	事業の実施結果	達成値 平成28年8月	達成状況 100%	具体的な内容 計画よりも早い納車となったが、駐車場の整備や送迎サービスの決定、送迎担当者のシフト作成など、車両運営スタッフが中心となって準備を進めた。今後の態勢で納車を迎えることができ、新しい車両での送迎サービスを開始した。	採点 4
	事業の成果・波及	達成値 76人	達成状況 95%	具体的な内容 週5日の送迎で利用するも、外出希望者などにも対応できなかったため、目標達成に至らなかった。今後は地域行事への参加も行っていくため、目標達成が見込み。	採点 3
(4) 情報発信	事業の結果	達成値 1.1回 2.1回 3.1回	達成状況 1.100% 2.50% 3.100%	具体的な内容 1.10月1日発行の機関誌に導入車両の紹介記事を掲載し、関係者や公共施設等に配布した。 2.車両導入前はweb担当者の退職と重なり、連絡体制が整わず、掲載できなかったが、導入後は法人HPに掲載できた。 3.9月25日〇〇新聞に事業の実施について掲載した。	採点 3
	競輪・オートレース補助金による事業であること	達成値 1.1回 2.1回 3.1回	達成状況 1.100% 2.50% 3.100%	具体的な内容 1～3. 上記の情報発信時には、常にオートレース補助金による事業であることを明示した。	採点 3
(5) 自己評価の体制	予定通り評価委員会を開催し評価を行った。(「評価過程の記録」として議事録添付) 評価結果の法人機関誌掲載は、12月に行う予定。				採点 4

この場合の達成状況の算出方法は以下のとおりです。
(3/5)の目標値「平成28年9月」に対し(4/5)の達成値は「平成28年8月」と遅れがなかったため、達成状況を「100%」としました。

指標が複数ある場合は、指標ごとにそれぞれ採点し、それらを平均して項目の採点としてください。
(例) 1. (達成状況 100%) →4点
2. (達成状況 50%) →1点
3. (達成状況 100%) →4点
(4点+1点+4点)/3 = 3点
割り切れない場合は整数に切り上げてください。

「具体的な内容」実績の具体的な内容を記入
(達成値を数値で表せなかった場合や、やむを得ずスコアリングガイド通りに採点を行わなかった場合等は、その理由を具体的に記入)

「採点・総合評価点」
P22, 23のスコアリングガイドを基に採点

(b) 総合評価

●(a) 個別項目の評価から実施状況等を振り返り、事業全体を評価してください。

(1) 事前計画(2/5)記載の「補助事業の直接的な目的」を踏まえた、事業全体についての意見・所感	計画以上の速さで車両を導入し、順調にレンタル車両と切り替えられ、途切れることなく送迎サービスを行うこととなった。車両スタッフを増員し、より安全安心な運用を円滑に行うことができた。安心安全対策を講じた車両にて送迎サービスを行うことができ、利用者とその家族、介護者の負担が軽減されたと思われる。今後は地域の行事への参加を予定しており、今まで以上に地域と交流が深まるものと期待される。
(2) 優れている点・課題、改善すべき点	法人HPによる情報発信についてはweb担当者に一任していたため、担当者が退職した結果、車両導入前のweb掲載は間に合わなかった。補助事業全体を管理する者を置くことで、改善できたと思われる。
(3) その他、アピールしたい点、是非知ってもらいたい点	今までのレンタル車両と違い、法人名が入ったカラフルな外装で施設周辺を走るようになったためか、新車利用開始から今までに施設サービス利用希望等の問い合わせが3件あった。

【福祉車両】

総合評価点 4

【建築/補修】施設の建築・補修

<交付申請>

28-O-000 (福)◎◎◎福祉会 [1]

◎◎グループホームの建築

別紙・JKA補助事業 平成28年度 事前計画/自己評価書(3/5)

4. 補助事業の事前計画

補助事業

(1) 受益者 (ニーズ)	(受益者)地域の生活介護や就労継続支援等の日中活動事業を利用している障害者。(ニーズ)地域で自立した生活を営む上で食事や入浴等の介護や日常生活上の支援を必要とする者が入居できるグループホームが市内になかったため、入居希望者は多い。		
(2) 事業内容	<p>障害者グループホームの新築(定員 男性4名・女性4名 計8名)</p> <p>構造規格: 木造平屋建て(準耐火構造)</p> <p>延床面積 (1)364.25平方メートル(補助金要望建物)</p> <p>付帯設備: 暖冷房設備、合併処理浄化槽、スプリンクラー設備等</p> <p>初度調査: 別添一覧表のとおり</p> <p>自立した生活の中で、日中は就労継続支援事業等を利用し、夜間や休日はグループホーム内で食事、入浴、洗濯、余暇等、又外出・ショッピング等、自由な時間を過ごす。家賃は月額〇万円、食費は日額〇円、光熱費として月額〇万円が自己負担の利用料となる。入居条件は身体、知的、精神障害の方であり、少数で共同生活が営める方である。地域住民との交流を図り、障害者の理解を得るための目的を果たし、地域との共生を目指す。</p>		
事業の新規性	市内初のグループホーム。入居することにより、これまで地域社会で自立した生活ができなかった障害者の方々が、地域社会との協力体制のもと、自分らしく安心して生き生きと過ごすことができる。併せて虐待防止や相談支援の充実が図られる。		
事業の発展性	本事業の実施により、グループホームの入居者が新たな地域生活を始められ、それぞれが自分自身の可能性を広げられ、生き生きと過ごすことができる。安心して生活できる施設として地域福祉に寄与することが期待できる。		
実施計画	予算等	事業の完了時期 平成29年3月15日 【スケジュール】 別添1:補助事業の概要のとおり 【予算】 事業経費比較表のとおり	
実施場所	〇〇県〇〇市〇〇町〇丁目〇-〇		
実施体制	当法人理事長を責任者とし、法人職員2名、外部専門家2名、地域住民2名でグループホーム建設検討委員会を設置。建築後の支援体制は、世話人〇名による支援を行い、夜間は〇名が常駐する。また、管理者、サービス管理責任者をおき、世話人のサポートや施設の維持管理等に努める。		
(3) 達成目標	事業の実施結果	[指標] 施設開設時期	[目標値] 平成29年4月
	事業の成果・波及	[指標] 施設入居者数	[目標値] 8名
(4) 情報発信	事業の結果	[指標] 1. 掲示板掲載回数 2. HP掲載回数 3. 機関誌掲載回数 4. 新聞掲載回数	[目標値] 1. 2回 2. 1回 3. 1回 4. 1回
	競輪・オートレース補助金による事業であること	[指標] 1. 掲示板掲載回数 2. HP掲載回数 3. 機関誌掲載回数 4. 新聞掲載回数	[目標値] 1. 2回 2. 1回 3. 1回 4. 1回
(5) 自己評価の体制	建設検討委員会のメンバーとは別の外部有識者2人、地域住民2人、施設関係者2人で構成される評価委員会を開催し、自己評価を行う。法人Webサイトに評価結果の公表を行う。		

「要望申請」時のものではありません。ご注意ください。

事業終了後に自己評価(4/5)を実施してください。

補助事業の結果・成果により、補助事業の目的達成を図ります。

<交付申請>

28-O-000 (福)◎◎◎福祉会 [1]

◎◎グループホームの建築

別紙・JKA補助事業 平成28年度 事前計画/自己評価書(2/5)

(2) 補助事業の直接的な目的

補助事業の結果(アウトプット)、成果(アウトカム)の直接的な効果により達成を目指す、補助事業の直接的な目的を記入してください。

補助事業の直接的な目的

遠方からバスや家族の送迎にて通勤されている方や、施設生活から地域生活を希望される方、支援学校を卒業され一般就労、または福祉的就労希望される方々の住まいの場の確保。世話人の配置を行うことで、食事提供での栄養面の確保。また生活空間の衛生面の確保。入居者が、自分の家として安心して楽しく生活し、一人でも多く地域で共生できるように支援する事を目的とする。

インターネットDL版

事前計画(3/5)及び(2/5)を振り返り、自己評価を実施してください。

＜自己評価1回目＞

補助事業番号と補助事業者名を記入

補助事業番号28 - 〇 - 〇〇〇

補助事業者名(福)〇〇〇福祉会

別紙・JKA補助事業 平成28年度 事前計画／自己評価書(4/5)

5. 補助事業の自己評価

自己評価書作成日と作成者名を記入

作成日平成29年5月10日

作成者〇〇 〇〇〇

(a) 個別項目評価

●個別の評価項目について、(3/5) 4. 事前計画 の達成状況等を把握し、分析・評価してください。

(1) 受益者 (ニーズ)	2回目	「補修」事業は全ての項目を1回目に評価します。		採点
(2) 事業内容				
事業の新規性または継続の必要性	2回目			採点
事業の発展性	2回目			採点
実施計画・体制				採点
(3) 達成目標				
事業の実施結果				採点
事業の成果・波及				採点
(4) 情報発信				
事業の結果				採点
競輪・オートレース補助金による事業であること				採点
(5) 自己評価の体制				採点

この場合の達成状況の算出方法は以下のとおりです。
(3/5)の目標値「8名」に対する(4/5)の達成値「7名」の割合。
↓
達成値/目標値=達成状況
7/8 = 87.5% ≒ 88%

指標が複数ある場合は、指標ごとにそれぞれ採点し、それらを平均して項目の採点としてください。
(例) 1. (達成状況 50%) → 1点
2. (達成状況 100%) → 4点
3. (達成状況 0%) → 1点
4. (達成状況 100%) → 4点
(1点+4点+1点+4点)/4 ≒ 3点
割り切れない場合は整数に切り上げてください。

「達成状況」事前計画(3/5)の目標値に対する達成値の割合を(達成値が数値化できない場合にも)パーセンテージで記入

「具体的内容」実績の具体的内容を記入(達成値を数値で表せなかった場合や、やむを得ずスコアリングガイド通りに採点を行わなかった場合等は、その理由を具体的に記入)

「採点・総合評価点」P22, 23のスコアリングガイドを基に採点

(b) 総合評価

●(a) 個別項目の評価から実施状況等を振り返り、事業全体を評価してください。

総合評価点4

(1) 事前計画(2/5)記載の「補助事業の直接的な目的」を踏まえた、事業全体についての意見・所感	グループホームの新築により、8名の方の住まいの場を確保することができた。今現在の入居者は7名だが、入居者間のトラブルもなく、落ち着いた生活をし、快適に過ごしている。入居者が、自分の家として安心して楽しく生活し、地域での共生の一步を踏み出した。
(2) 優れている点・課題、改善すべき点	地域にはまだ入居希望者がいるため、2棟目3棟目のグループホーム開設を計画中である。
(3) その他、アピールしたい点、是非知ってもらいたい点	今回の建築地は、法人事務所と離れている場所であるため、計画当初は建築地周辺の住民との調整が心配されたが、建設検討委員会等に地域住民の方々が積極的に関わっていただけたことにより、順調に開設するに至った。今後も地域との交流を続け、良好な関係を保ちたい。

<交付申請>

28-〇〇〇 〇〇大学大学院〇〇工学研究科 〇〇〇〇〇 [1]
〇〇における〇〇〇〇の開発

別紙・JKA補助事業 平成28年度 事前計画／自己評価書(3／5)

4. 補助事業の事前計画

補助事業				
(1) 受益者 (ニーズ)	(受益者)〇〇介護者。(ニーズ)〇〇介護時は、ほんの数分のために介護者が複数名必要になるケースが多いが、本事業において制作するロボットを使用することにより、介護者一人のみでの介護が可能となる。また、……………。			
(2) 事業内容	以前から〇〇の動きをサポートするロボットの研究が続けているが、それを基に〇〇介護時に応用の可能性を見出し、実用化に向けた検証用ロボットの試作を以下の手順で行う。 1. …… 2. …… 3. …… 4. …… 5. ……			
事業の 新規性	〇〇介護時におけるサポートロボットは今までに例がなく、新規性の高い事業である。			
事業の 発展性	完成品の低価格化が可能となれば、福祉施設のみならず一般家庭における在宅介護用にも普及されと思われるため、試作品完成後は企業と共同で実用化を進める。			
実施 計画	予算等	【事業の完了時期】 平成29年3月31日 【スケジュール】 別添1: 補助事業の概要のとおり 【予算】 事業経費比較表のとおり		
実施 場所	〇〇大学大学院〇〇工学研究科〇〇研究室			
実施体制	申請者本人が中心となり、〇〇准教授及び学生3人の協力体制のもと、事業を実施する。			
(3) 達成 目標	事業の実施 結果	【指標】 検証用ロボットの試 作	【目標値】 完成	【具体的内容】 実用化に向け検証可能なロボットを試作する。
	事業の 成果・ 波及	【指標】 学会発表	【目標値】 2件	【具体的内容】 平成29年度中に、〇〇学会秋季大会及び△△学会にて発表。
(4) 情報 発信	事業の 結果	【指標】 1. パネル展示回数 2. HP掲載回数 3. 学会発表回数	【目標値】 1.1回 2.1回 3.2回	【具体的内容】 1. 平成28年〇月オープンキャンパス時にパネル展示を行う。 2. 〇〇研究の最終報告を研究室Webページに掲載する。 3. 平成29年度中に〇〇学会秋季大会及び△△学会にて発表を行う。
	競輪・オ ートレース 補助金によ る事業で あること	【指標】 1. パネル展示回数 2. HP掲載回数 3. 学会発表回数	【目標値】 1.1回 2.1回 3.2回	【具体的内容】 1～3. 上記1～3.に併せ、オートレースの補助金による事業である旨を明示する。
(5) 自己評価 の体制	学内で成果を発表する際に、〇〇研究室および△△研究室研究員等と評価を行う。結果については〇〇研究室ブログに掲載する。			

事業終了後に自己評価(4／5)を実施してください。

事前計画(3／5)を振り返り、自己評価を実施してください。

補助事業の結果・成果により、補助事業の目的達成を図ります。

<交付申請>

28-〇〇〇 〇〇大学大学院〇〇工学研究科 〇〇〇〇〇 [1]
〇〇における〇〇〇〇の開発

別紙・JKA補助事業 平成28年度 事前計画／自己評価書(2／5)

(2) 補助事業の直接的な目的
補助事業の結果(アウトカム)、成果(アウトカム)の直接的な効果により達成を目指す、補助事業の直接的な目的を記入してください。

補助事業の直接的な目的
本事業では、〇〇介護時に介護者が自ら装着して使用するサポート用ロボットの研究・開発を行い、実用化に向けた検証作業用ロボットの試作を行う。

インターネットDL版

<自己評価1回目>

補助事業番号と補助事業者名を記入

補助事業番号28 - 〇〇〇

補助事業者名〇〇大学大学院〇〇工学研究科 〇〇 〇〇〇

別紙・JKA補助事業 平成28年度 事前計画／自己評価書(4/5)

5. 補助事業の自己評価

自己評価書作成日と作成者名を記入

作成日平成29年5月25日

作成者〇〇 〇〇〇

(a) 個別項目評価

●個別の評価項目について、(3/5) 4. 事前計画 の達成状況等を把握し、分析・評価してください。										
(1) 受益者 (ニーズ)		2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)							採点	
(2) 事業内容		事前計画の通り。〇〇介護時のサポートロボットの試作を計画通り行うことができた。現在は検証作業に移り、継続中である。								
事業の新規性または継続の必要性		2回	この場合の達成状況の算出方法は以下のとおりです。							採点
事業の発展性		2回	(3/5)の目標値「完成」に対し(4/5)の達成値は「完成」と数値で表されていないが、計画通り達成したため、達成状況は「100%」としました。							採点
実施計画・体制		申請者本人が中心となり、〇〇准教授及び学生3人の協力体制のもと、計画通り実施した。								採点
(3) 達成目標	事業の実施結果	[達成値] 完成	[達成状況] 100%	[達成状況] 事前計画が数値化できない場合にもパーセンテージで記入				[具体的内容] 試作機を完成させ、検証作業を進めている。	4 採点	
	事業の成果・波及	[達成値] 0件	[達成状況] 0%	[達成状況] 事前計画(3/5)の目標値に対する達成値の割合を(達成値が数値化できない場合にも)パーセンテージで記入				[具体的内容] 計画どおり、平成29年度中に〇〇学会秋季大会及び△学会にて発表する予定である。	4 1 採点	
	事業の結果	[達成値] 1. 1回 2. 1回 3. 0回	[達成状況] 1. 100% 2. 100% 3. 0%	[達成状況] 事前計画(3/5)の目標値に対する達成値の割合を(達成値が数値化できない場合にも)パーセンテージで記入				[具体的内容] 1. 平成28年〇月オープンキャンパス時にパネル展示を行った。 2. 研究室Webページに最終報告を掲載した。 3. 計画どおり、平成29年度中に、〇〇学会秋季大会及び△学会にて発表する予定である。	3 採点	
(4) 情報発信	競争・オートレース補助金による事業であること	[達成値] 1. 1回 2. 1回 3. 0回	[達成状況] 1. 100% 2. 100% 3. 0%	[達成状況] 事前計画(3/5)の目標値に対する達成値の割合を(達成値が数値化できない場合にも)パーセンテージで記入				[具体的内容] 1,2. 情報発信時には、オートレースの補助金を受けて実施した研究である旨を明示した。 3. 学会発表時にはオートレースの補助金を受けて実施した研究である旨を明示する予定である。	3 採点	
	自己評価の体制	学内で成果を発表する際に、〇〇研究室および△△研究室研究員等と評価を行った。結果については〇月に〇〇研究室ブログに掲載する予定。							3 採点	
[採点・総合評価点]										

(b) 総合評価

●(a) 個別項目の評価から実施状況等を振り返り、事業全体を評価してください。

総合評価点 4

(1) 事業全体についての意見・所感

これまでの〇〇の動きをサポートするロボットの研究開発を基に、福祉事業の分野において実用化の可能性を見出せるよう、計画を立てていたが、無事検証作業にたどり着き、実用化の可能性が高まった。非常に有意義な研究であった。

(2) 優れている点・課題、改善すべき点

研究室の一角を検証作業に使用できるよう、レイアウトの変更が時間がかかり、検証作業への移行がスムーズにできなかった。事前に検証作業も含めて計画を立てるべきであった。

(3) その他、アピールしたい点、是非知ってもらいたい点

今回は〇〇の動きをサポートするロボットの研究開発を〇〇介護に焦点を当て進めてきたが、この機能は、〇〇分野にも応用可能であるため、企業の協力が得られたのち、〇〇分野用ロボットの研究開発を行いたい。

<交付申請>

28-〇〇〇 (一社)〇〇〇センター [1]
〇〇における〇〇の安全性ガイドライン策定事業

別紙・JKA補助事業 平成28年度 事前計画／自己評価書(3/5)

4. 補助事業の事前計画

補助事業			
(1) 受益者 (ニーズ)	<p>〔受益者〕〇〇機械産業の〇〇分野における〇〇機器利用者 (ニーズ)近年利用者が増加している、〇〇機械産業の〇〇機器については、使用時の安全性向上のためのガイドラインが確立されていないため、必要である。</p>		
(2) 事業内容	<p>学識経験者、〇〇機械設備製造業者、〇〇機器製造業者、並びに使用者(計10名)で構成される〇〇機器の安全・安心に関する調査研究委員会を組織し、以下の手順で審議、議論の場を設け、〇〇機械産業の〇〇分野における、〇〇機器の安全性向上のため、ガイドラインを作成し、安全な生産システムの……を図る。調査報告書を作成し関係者に配布、Webサイトでも公開する。</p> <p>・〇〇機器の安全・安心に関する調査研究委員会開催(年間10回)</p> <p>……</p> <p>……</p> <p>……</p>		
継続の必要性	<p>本財団は〇〇機械産業用機器の安全性向上のためのガイドラインの策定を行ってきたが、多種多様な〇〇機械産業用機器がある中、まだ安全性向上のためのガイドラインの策定がされておらず、必要な機器が多くある。〇〇機械産業の〇〇分野における〇〇機器についても新たにガイドラインの策定が必要となってくる。利用者の増加とともに、使用時の事故が増える傾向にあるため、早急に安全性向上のためのガイドラインの策定が望まれる。</p>		
事業の発展性	<p>安全性向上のためのガイドラインの策定をし、調査報告書を作成し関係者に配布、Webサイトでも公開することにより、普及啓発が促進され、〇〇機器使用時の事故が減り、〇〇機械産業の〇〇分野の発展が期待できる。</p>		
実施計画	予算等	<p>【事業の完了時期】 平成29年3月31日 【スケジュール】 別添1:補助事業の概要のとおり 【予算】 事業経費比較表のとおり</p>	
実施場所	<p>一財)〇〇〇〇研究協会 東京都〇〇区〇〇ホール(調査報告会)</p>		
実施体制	<p>学識経験者、〇〇機械設備製造業者、〇〇機器製造業者、並びに使用者(計10名)で構成される〇〇機器の安全・安心に関する調査研究委員会</p>		
(3) 達成目標	事業の実施結果	事業の成果・波及	事業の結果
	<p>〔指標〕</p> <p>1. 報告書配布数</p> <p>2. 報告会開催数</p>	<p>〔目標値〕</p> <p>1. 3,000冊</p> <p>2. 2回</p>	<p>〔具体的内容〕</p> <p>1. 報告書を調査報告会参加者や協会の会員企業等に配布。</p> <p>2. ガイドライン策定後、2回開催。</p>
	<p>〔指標〕</p> <p>〇〇使用時の事故件数</p>	<p>〔目標値〕</p> <p>0件(月平均17件減少)</p>	<p>〔具体的内容〕</p> <p>平成〇年度月平均17件あった全国の〇〇機器使用時の事故(軽微なものを含む)がなくなる見込み。</p>
	<p>〔指標〕</p> <p>1. 機関誌掲載</p> <p>2. Webページ掲載</p> <p>3. 会議報告</p>	<p>〔目標値〕</p> <p>1. 1回</p> <p>2. 1回</p> <p>3. 3回</p>	<p>〔具体的内容〕</p> <p>1. 事業について本財団機関誌に掲載。</p> <p>2. 本財団Webページを訪れた全ての人が報告書を閲覧可能となるよう、調査結果及び報告書に掲載。</p> <p>3. 国内会議にて3回報告。</p>
(4) 情報発信	<p>〔指標〕</p> <p>1. 機関誌掲載</p> <p>2. Webページ掲載</p> <p>3. 会議報告</p>	<p>〔目標値〕</p> <p>1. 1回</p> <p>2. 1回</p> <p>3. 3回</p>	<p>〔具体的内容〕</p> <p>1～3.</p> <p>上記の情報発信時には、常に競輪の補助金による事業であることを明示。</p>
(5) 自己評価の体制	<p>外部専門家(〇名)、本財団役員(〇名)、実施責任者(1名)等による委員会において自己評価を実施。自己評価結果は本財団Webサイトにて公表。</p>		

インターネットDL版

<交付申請>

28-〇〇〇 (一社)〇〇〇センター [1]
〇〇における〇〇の安全性ガイドライン策定事業

別紙・JKA補助事業 平成28年度 事前計画／自己評価書(2/5)

(2) 補助事業の直接的な目的

補助事業の結果(アウトプット)、成果(アウトカム)の直接的な効果により達成を目指す、補助事業の直接的な目的を記入してください。

補助事業の直接的な目的

〇〇機械産業の〇〇分野における、〇〇時の〇〇機器の安全性向上のため、ガイドラインを策定し、安全な生産システムの〇〇を図る。

インターネットDL版

事前計画(3/5)及び(2/5)を振り返り、自己評価を実施してください。

<自己評価1回目>

補助事業番号

28

〇〇〇

補助事業者名

(一社)〇〇〇センター

項番

1

総事業

項目数

2

補助事業番号と補助事業者名を記入

別紙「〇〇〇補助事業」平成28年度 事前計画／自己評価書(4/5)

事業項目名

〇〇における〇〇の安全性ガイドライン策定事業

複数項目ある場合は項目名と項目番号を記入

5. 補助事業の自己評価

自己評価書作成日と作成者名を記入

作成日

平成

29

年

5

月

25

日

作成者

〇〇 〇〇〇

(a) 個別項目評価

●個別の評価項目について、(3/5) 4. 事前計画 の達成状況等を把握し、分析・評価してください。

(1) 受益者 (ニーズ)	近年利用者が増加している、〇〇機械産業の〇〇機器についての使用時の安全性向上のためのガイドラインが確立された。調査報告会には〇社の企業が参加した。				採点
(2) 事業内容	〇〇関係者に対するアンケート調査は全4回行う予定であったが、3回で全ての調査を行うことができた。他は計画通り事業を実施し、ガイドラインを策定することができた。				採点
事業の新規性または継続の必要性	多種多様な〇〇	〇〇における〇〇機器の			採点
事業の発展性		ください。			採点
実施計画・体制	計画通り、学識経験者、〇〇機械設備製造業者、〇〇機器製造業者、並びに使用者(計10名)で構成される〇〇機器の安全・安心に関する調査研究委員会を開催し、調査報告会を4回行った。				採点
(3) 達成目標	事業の実施結果	[達成値] 1. 2,680冊 2. 2回	[達成状況] 1. 89% 2. 100%	[具体的内容] 1. 調査報告書を調査報告会参加者や関係企業等に配布。 2. ガイドライン策定後、〇月〇日及び〇〇〇〇に開催。	採点
	事業の成果・波及	[達成値] 月平均7件減少	[達成状況] 41%	[具体的内容] ガイドライン策定後、〇月〇日までに〇〇件が減少した。平成〇年度月平均と比較し月平均10件より7件減少したが、目標達成できなかった。〇〇〇〇の普及促進とともに、事故件数は減少していたため、年内に目標達成できるよう、今後はガイドラインの普及に努める。	採点
(4) 情報発信	事業の結果	[達成値] 1. 1回 2. 1回 3. 2回	[達成状況] 1. 100% 2. 100% 3. 67%	[具体的内容] 1. 事業について本財団機関誌(〇月号)に掲載した。 2. 本財団Webページを訪れた全ての人が、報告書を見ることが可能となるよう、調査結果及び報告書を掲載した。 3. 国内会議にて2回報告済。今後〇月には報告予定。	採点
	競争・オポ ーティ ス補助 金による 事業であること	[達成値] 1. 1回 2. 1回 3. 2回	[達成状況] 1. 100% 2. 100% 3. 67%	[具体的内容] 1～3. 上記の情報発信時には、常に競争・オポ ーティ ス補助金による事業であることを明示した。	採点
(5) 自己評価の体制	外部専門家(〇名)、法人役員(〇名)、実施責任者(1名)等による委員会を〇月〇日開催し、自己評価を実施。自己評価結果は当会HPにて一部公表済み。				採点
[採点・総合評価点]					

(b) 総合評価

●(a) 個別項目の評価から実施状況等を振り返り、事業全体を評価してください。

総合
評価点

4

(1) 事前計画(2/5) 記載の「補助事業 の直接的な目的」を 踏まえた、事業全 体についての 意見・所感	〇〇機器の安全・安心に関する調査研究委員会において、調査分析がスムーズに行われ、〇〇機械産業の〇〇分野における、〇〇時の〇〇機器の安全性向上のためのガイドラインを策定することができた。今後はガイドラインの周知徹底を進め、さらなる安全な生産システムの〇〇を図りたい。
(2) 優れている点・ 課題、改善すべき 点	〇〇機器の安全・安心に関する調査研究委員会を専門性の高いメンバーで構成できたことにより、業界初の〇〇機器の安全性向上のためのガイドラインを策定することができた。
(3) その他、ア ピールしたい点、 是非知ってもらい たい点	業界初の〇〇機器の安全性向上のためのガイドラインを策定することができ、〇〇学会から特に高い評価を得た。

【振興事業】

<交付申請>

28-O-000 (公財)0000協会 [1]

0000講習会の開催

別紙・JKA補助事業 平成28年度 事前計画／自己評価書(3/5)

4. 補助事業の事前計画

補助事業

(1) 受益者 (ニーズ)	直接的受益者は、0000専門職の000000士や0000指導員等、全国の0000施設の職員。間接的受益者は、全国0000人の施設及び地域で在宅生活する0000。		
(2) 事業内容	<p>全国の0000専門職の000000士や0000指導員等、全国の0000施設の職員が参加する講習会を「0000」をテーマとして行い、新たな知識の習得や技術の向上を図る。</p> <p>・平成28年度0000講習会準備委員会を設置し、講習会のテキストを作成。 ・平成28年9月～平成29年1月にかけて、全国5ヵ所(仙台、東京、名古屋、広島、福岡)で、1回2日間を2回ずつ、0000専門の講師による0000講習会を開催。(講習会の内容は各回同じ)</p>		
継続の 必要性	毎年継続して開催している講習会であるが、0000に関する法改正、取り巻く環境の変化や社会情勢など、最新の情報を伝え共有することを目的としているため、継続して開催していくことは重要であるとする。		
事業の 発展性	講習会参加者が、講習会で得た知識や技術を実践することにより、地域や施設における療育の質が向上する。また、講習会で得た知識や技術を施設の他の職員に伝え共有することにより、さらに地域や施設における療育の質が向上する。		
実施 計画	予算等	【事業の完了時期】 平成29年3月31日 【スケジュール】 別添1:補助事業の概要のとおり 【予算】 事業経費比較表のとおり	
実施 場所	準備委員会	準備委員会は法人本部で開催 講習会 仙台…0000会館(予定) 東京…0000センター(予定) 名古屋…0000大学(予定) 広島…0000ビル(予定) 福岡…0000大学(予定)	
実施 体制	当法人事務局と0000大学とで連携し、講習会の講師となる0000専門家3名も含めたメンバー10名で、平成27年度0000講習会準備委員会を設置し、講習会の内容の検討等を行う。講習会当日は、当法人事務局スタッフ4名及び学生ボランティア4名で対応する。		
(3) 達成 目標	事業の実施 結果	【指標】 参加者数	【目標値】 1回平均30人(各地域2回開催) 【具体的内容】 1. 全国の0000施設専門職の人数規模(約0人)から算出。
	事業の 成果・波及	【指標】 参加者の満足度	【目標値】 80% 【具体的内容】 講座終了後にアンケートを実施し、前年度実績(75%)を超える評価を得る。
(4) 情報 発信	事業の 結果	【指標】 1. 業界紙掲載回数 2. 機関誌掲載回数 3. 本財団Webサイト掲載回数	【目標値】 1. 2回 2. 2回 3. 11回 【具体的内容】 1. 講習会開催前に告知をし、全講習会開催後は結果を掲載する。 2. 講習会開催前に告知をし、全講習会開催後は結果を掲載する。 3. 講習会開催前に告知をし、開催後は各回毎に結果を掲載する。
	競輪・オートレース補助金による事業であること	【指標】 1. 業界紙掲載回数 2. 機関誌掲載回数 3. 本財団Webサイト掲載回数	【目標値】 1. 2回 2. 2回 3. 11回 【具体的内容】 1～3. 上記の全てで、当該事業は競輪の補助金を受けて実施したものである旨を明記する。
(5) 自己評価 の体制	講習会終了後、参加者にアンケートを行い、外部有識者も参加する評価委員会において補助事業についての評価を行う。講習会についての評価結果は、年度報告書に記載する。		

「要望申請」時のものではありません。ご注意ください。

事業終了後に自己評価(4/5)5/5)を実施してください。

補助事業の結果・成果により、補助事業の目的達成を図ります。

<交付申請>

28-O-000 (公財)0000協会 [1]

0000講習会の開催

別紙・JKA補助事業 平成28年度 事前計画／自己評価書(2/5)

(2) 補助事業の直接的な目的

補助事業の結果(アウトプット)、成果(アウトカム)の直接的な効果により達成を目指す、補助事業の直接的な目的を記入してください。

補助事業の直接的な目的

0000の向上のためには、この業界に従事している専門職の知識や技能のレベルアップが必要である。0000講習会を開催することによって、参加者が知識や技能及び最新情報を学ぶことができ、その結果、参加者の専門知識や技能が磨かれ、今後の0000の発展が期待できる。

インターネットDL版

事前計画(3/5)及び(2/5)を振り返り、自己評価を実施してください。

<自己評価1回目>

補助事業番号	28 - 〇 - 〇〇〇	補助事業者名	(公財) 〇〇〇〇協会	項番	1 /	総事業 項目数	2
補助事業番号と補助事業者名を記入 別紙「JKA補助事業」平成28年度 事前計画／自己評価書(4/5)				事業項目名	〇〇〇〇講習会の開催		

5. 補助事業の自己評価

(a) 個別項目評価

作成日 平成 29 年 3 月 2 日 作成者 〇〇 〇〇〇

●個別の評価項目について、(3/5) 4. 事前計画 の達成状況等を把握し、分析・評価してください。

評価項目	達成状況	採点
(1) 受益者 (二ズ)	全国の〇〇〇施設から、〇〇〇専門職の〇〇〇〇〇士や〇〇〇指導員等が講習会に参加し、好評であった。	4
(2) 事業内容	講習会のテキストを作成し、以下のとおり、〇〇専門の講師による〇〇〇〇講習会を「〇〇〇〇」をテーマとして開催した。 仙台…〇〇〇〇会館(平成28年9月12・13日、10月13・14日) 東京…〇〇〇〇センター(平成28年11月8・9日、12月12・13日) 今年度も講習会を開催	4
事業の新規性または継続の必要性	この場合の達成状況の算出方法は以下のとおりです。 (3/5)の目標値「30人」に対する(4/5)の達成値「31人」の割合。 ↓ 達成値÷目標値=達成状況 31÷30 = 103.3% ≒ 103%	4
事業の発展性	2回目	4
実施計画・体制	5月～8月に、当法人事務局と〇〇〇の大学とで連携し、講習会の講師となる〇〇〇〇専門家も含めたメンバー10名で、平成28年度〇〇〇講習会準備委員会を設置し、講習会の内容の検討等を行い、講習会のテキストを作成した。講習会当日は、全会場において当法人事務局スタッフ4名及び学生ボランティア4名で対応した。	4
事業の実施結果	[達成値] 1回平均31人 [達成状況] 103%	4
事業の成果・波及	[達成値] 85% [達成状況] 106%	4
事業の結果	[達成値] 1.2回 2.2回 3.10回 [達成状況] 1.100% 2.100% 3.91%	4
情報発信	競輪・オートレース補助金による事業であること [達成値] 1.2回 2.2回 3.10回 [達成状況] 1.100% 2.100% 3.91%	4
(5) 自己評価の体制	予定どおり評価委員会を開催し、評価を行った。(「評価過程の記録」として添付した議事録参照)。報告書については、次年度5月に発行予定。	4

[採点・総合評価点]
P22, 23のスコアリングガイドを基に採点

(b) 総合評価

●(a) 個別項目の評価から実施状況等を振り返り、事業全体を評価してください。

総合評価点	4
-------	---

(1) 事前計画(2/5)
記載の「補助事業の直接的な目的」を踏まえた、事業全体についての意見・所感

全国の〇〇〇施設から、〇〇〇専門職の〇〇〇〇〇士や〇〇〇指導員等が講習会に参加し、アンケートでは参加者〇名(〇%)が、「最新情報を学ぶことができた」と回答しており、知識や技術の専門性の向上が図られた。受講者が〇〇〇〇施設に戻り、参加できなかった職員等に伝授することにより、今後の地域や施設における〇〇〇〇が期待できる。

(2) 優れている点・課題、改善すべき点

今回は講習会終了後のアンケートの回収率をもっと上げられるよう、回収方法の改善を試みる。

(3) その他、アピールしたい点、是非知ってもらいたい点

委員会を設置し作成した平成28年度のテキストは、法改正による新制度導入が中心にまとめられていることから、△△△の専門家からも△△△△の分野においても活用できるとのことであり、100冊増刷し、△△△△の専門家の養成に活用されることとなった。

【事業費】

別紙・JKA補助事業 平成28年度 事前計画／自己評価書(3／5)

4. 補助事業の事前計画

補助事業				
(1) 受益者 (ニース)	<p>(受益者) 高齢者。(ニース) 高齢者の間で△△が増加している。△△が増加することにより、△△△△となってしまうケースが多いことから、△△の予防が必要となってくる。予防には〇〇が必要であるが、依然として〇〇について知られていないため、普及啓発の必要がある。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>「要望申請」時のものではありません。ご注意ください。</p> </div>			
(2) 事業内容	<p>〇〇と高齢者の△△予防についての普及啓発冊子を作成し、全国の〇〇〇〇支部に配布、支部から各地区の保健所や高齢者の施設等に配布し、内容の普及啓発を促す。 作成の手順については、以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 			
事業の新規性	〇〇と、高齢者の△△予防についてのみをまとめた啓発冊子は、今までどこからも発行されておらず、新しい試みといえる。			
事業の発展性	△△予防の為の知識の普及のみならず、〇〇を用いた実践的活動につながる事が期待できる。			
実施計画	予算等	<p>【事業の完了時期】 平成29年3月31日 【スケジュール】 別添1: 補助事業の概要のとおり 【予算】 事業経費比較表のとおり</p>		
実施場所	東京都〇〇区〇〇〇 (公財)〇〇〇〇〇〇協会			
実施体制	外部の〇〇研究家、本財団職員で構成したワーキンググループを設置し、冊子の内容について検討し、編集作業を行う。			
(3) 達成目標	事業の実施結果	<p>[指標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 冊子配布数 2. 1. 二次配布の実施支部数 	<p>[目標値]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 36,000冊 2. 36支部 	<p>[具体的内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全国の〇〇〇〇支部数から算出。 2. 冊子を各支部に配布後、1回目の自己評価実施までに全国の支部が各地域の状況に鑑みて決定した配布方法(普及啓発方法)に基づいた配布状況を調査する。
	事業の成果・波及	<p>[指標]</p> <p>普及率</p>	<p>[目標値]</p> <p>100%</p>	<p>[具体的内容]</p> <p>各支部ごとの対象者に対する冊子の内容の普及率を調査する。</p>
(4) 情報発信	事業の結果	<p>[指標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 機関誌掲載 2. Web掲載 3. 業界紙掲載 	<p>[目標値]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1回 2. 1回 3. 1回 	<p>[具体的内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本財団機関誌に、冊子完成に合わせて事業内容について掲載する。 2. 本財団Webサイトに、冊子完成後、事業内容及び冊子の内容を掲載する。 3. 〇〇新聞に、冊子完成後に事業内容について掲載する。
	競輪・オートレース補助金による事業であること	<p>[指標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 機関誌掲載 2. Web掲載 3. 業界紙掲載 	<p>[目標値]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1回 2. 1回 3. 1回 	<p>[具体的内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事業の結果の情報発信に併せて、当該事業はオートレースの補助金を受けて実施したものである旨を明示する。
(5) 自己評価の体制	事業完了後、外部有識者も参加する評価委員会において相談事業について評価を行う。評価結果は、法人Webサイトに掲載する。			

インターネットDL版

補助事業の結果・成果により、補助事業の目的達成を図ります。

事業終了後に自己評価（4／5、5／5）を実施してください。

＜交付申請＞

28-〇-〇〇〇 (公財)〇〇〇〇協会 [1]
△△予防の普及啓発事業

別紙・JKA補助事業 平成28年度 事前計画／自己評価書(2/5)

(2)補助事業の直接的な目的

補助事業の結果(アウトプット)、成果(アウトカム)の直接的な効果により達成を目指す、補助事業の直接的な目的を記入してください。

補助事業の直接的な目的

近年増えてきた高齢者の△△について、予防には〇〇が必要であることは、まだまだ知られていないため、早急に周知する必要がある。本事業においては、〇〇と△△予防について分かりやすく解説した冊子を作成し、全国の〇〇〇〇支部に配布し、普及啓発を図るものである。また、作成した冊子は本財団ホームページに掲載し、常に新しい情報を発信していくものとする。全国の〇〇〇〇支部からは、各地域の高齢者関係団体等に配布し、指導者等から高齢者に対し普及啓発を進める。

インターネットDL版

<自己評価1回目> 補助事業番号 28 - 0 - 000 補助事業者名 (公財) 0000協会 項番 1 総事業項目数 2

補助事業番号と補助事業者名を記入

別紙「JKK補助事業」平成28年度 事前計画／自己評価書(4/5) 事業項目名 △△予防の普及啓発事業

5. 補助事業の自己評価

(a) 個別項目評価

●個別の評価項目について、(3/5) 4. 事前計画 の達成状況等を把握し、分析・評価してください。

(1) 受益者 (ニーズ)	作成した冊子は、高齢者に親しみやすいつくりとなっている。各支部に配布した冊子は、各支部からそれぞれの地域の高齢者関係団体等への配布が終了したとのことである。今後は〇〇について、周知されていくと思われる。	採点	4
(2) 事業内容	〇〇と高齢者の△△予防についての普及啓発冊子を作成し、全国の〇〇〇〇支部に配布した。併せて、本財団Webページにも掲載した。	採点	4
事業の新規性または継続の必要性	配布先の高齢者団体の言葉をいだけ	採点	4
事業の発展性	また、それ	採点	4
実施計画・体制	計画どおり、外部の〇〇研究家(2名)と本財団職員(3名)で構成したワーキンググループを設置し、冊子の内容について検討し、編集作業を行い、作成した冊子を各支部に配布した。	採点	4
(3) 達成目標	事業の実施結果 [達成値] 1. 36,200冊 2. 12支部 [達成状況] 1. 101% 2. 33%	採点	3
事業の成果・波及	45% [達成状況] 45%	採点	1
(4) 情報発信	事業の結果 [達成値] 1. 1回 2. 1回 3. 1回 [達成状況] 1. 100% 2. 100% 3. 100%	採点	5
競争・オートレース補助金による事業であること	[達成値] 1. 1回 2. 1回 3. 1回 [達成状況] 1. 100% 2. 100% 3. 100%	採点	5
(5) 自己評価の体制	外部有識者も参加する評価委員会において相談事業について評価を行った。(〇年〇月〇日開催、別添「評価過程の記録」参照)評価結果は、△月中に法人HPに掲載する予定。)	採点	4

[採点・総合評価点]
P22, 23 のスコアリングガイドを基に採点

(b) 総合評価

●(a) 個別項目の評価から実施状況等を振り返り、事業全体を評価してください。

(1) 事前計画(2/5)記載の「補助事業の直接的な目的」を踏まえた、事業全体についての意見・所感	外部の〇〇研究家を含めたワーキンググループで作成した冊子は、完成度が高いものとなった。近年増えてきた高齢者の△△について、予防には〇〇が必要であることや、〇〇自体についての普及啓発が促進されるものと思われる。
(2) 優れている点・課題、改善すべき点	作成し、配布した冊子は、高齢者福祉関係団体の職員のみならず、高齢者本人にとっても分かり易い内容となっていると評判である。
(3) その他、アピールしたい点、是非知ってもらいたい点	全国紙である△△新聞から取材を受け、記事が掲載されたことにより問い合わせが増えた。

【事業費】

<自己評価1回目>

別紙・JKA補助事業 平成28年度 事前計画／自己評価書(5/5)

(4/5)に入力することで、
自動的に反映されます。

た、あるいは阻害した要因について、「要因分類」(1)～(15)の「促進」または「阻害」欄に「*」を記し、要因への対応あるいは今後この分析結果をどう活かすかを b 欄に、それぞれの要因分類の番号(1)～(15)を記す。

い場合には、(16)の欄に「*」を記してください。

【 】

作成の注意事項

※1 回目の自己評価に併せて実施して下さい。

- ・ 事業の目標達成を**促進**した要因がある場合は、「要因分類」(1)～(15)のうち、該当する要因の「促進」欄に「*」を印し、その要因の具体的な内容を(a)欄に、選択した要因分類番号(1)～(15)を文頭に付して記入してください。
- ・ 事業の目標達成を**阻害**した要因がある場合は、「要因分類」(1)～(15)のうち、該当する要因の「阻害」欄に「*」を印し、その要因の具体的な内容を(a)欄に、阻害要因への対応あるいは今後この分析結果をどう活かすかを(b)欄に、それぞれ選択した要因分類番号(1)～(15)を文頭に付して、記入してください。
- ・ 促進や阻害要因が一つもない場合は、(16)の欄に「*」を印してください。

※該当しない要因については記入不要です。

V 平成28年度 JKA補助事業「自己評価スコアリングガイド」

《 計画通り、問題なく事業が実施でき、予定通りの成果が上げられれば、評価点は「4」点となります。 》

総合評価		5	全体として極めて高いレベルの事業であった。
		4	全体として比較的高いレベルの事業であった。
		3	一部に不十分な水準の内容があり、今後の課題となるが、全体としてはほぼ問題のないレベルの事業であった。
		2	全体として不十分なレベルの事業であり、いくつかの課題が残った。
		1	全体として極めて不十分なレベルの事業であり、根本的な見直しが必要である。
(1) 受益者(ニーズ)		5	受益対象者、ニーズの想定は適切であり、当該受益者のニーズに沿った適切な事業を実施することができた。また加えて、想定した受益者を超えて、補助事業の効果が大きな広がりを見せている。
		4	受益対象者、ニーズの想定は適切であり、当該受益者のニーズに沿った適切な事業を実施することができた。
		3	受益対象者、ニーズの想定は適切であり、一部変更はあるものの当該受益者のニーズにほぼ沿った事業を実施することができた。
		2	受益対象者、ニーズの想定の一部に誤りがあり、計画変更が必要であった。または、受益対象者、ニーズの想定は適切であったものの、計画に問題があり当該受益者のニーズに対応するために、大幅な計画変更が必要であった。
		1	受益対象者、ニーズの想定に大きな誤りがあった。または、受益対象者、ニーズの想定に誤りがなかったものの、本事業の内容との齟齬が大きく、計画変更を行っても当該受益者のニーズに対応することができなかった。
(2) 事業 内容	事業の新規性 (新たな発想による、または新分野への取組み)または継続の必要性	5	【新規性】 事前計画で予定した以上の新規性があった。又は他にない取組を行うことができた。 【継続の必要性】 事前計画で想定した以上の必要性があった。
		4	【新規性】 事前計画で予定した通りの十分な新規性があった。 【継続の必要性】 事業計画で想定した通りの十分な必要性があった。
		3	【新規性】 事前計画の予定を下回ったが、ある程度の新規性はあった。 【継続の必要性】 事業計画の想定を下回ったが、ある程度の必要性があった。
		2	【新規性】 新規性は乏しかった。 【継続の必要性】 必要性は乏しかった。
		1	【新規性】 新規性は無かった。 【継続の必要性】 必要性は無かった。
	事業の 発展性 (事業完了後に想定される効果等)	5	事前計画の想定を上回る、具体的な効果等があった。
		4	事前計画の想定通りの、具体的な効果等があった。
		3	事前計画の想定は若干下回ったが、具体的な効果等があった。
		2	事前計画で想定したレベルにはまだ至っていないが、具体的な効果等が発現する十分な見込みがある。
		1	具体的な効果等の発現は難しい。
	実施計画・体制	5	事前計画は、内容及び結果・成果からみて妥当な計画(実施手法・スケジュール・コスト・体制)であった。また、実施過程における更なる創意工夫により、スケジュール面、コスト面等で事前計画を超える事業を実施することができた。
		4	事前計画は、内容及び結果・成果からみて妥当な計画(実施手法・スケジュール・コスト・体制)であった。また、事前計画通りに円滑、効果的かつ効率的に事業を実施できた。
		3	事前計画の実施手法、実施体制で若干不十分な部分があり、修正が必要であったが、ほぼ支障なく事業を実施できた。
		2	事前計画に不十分な部分(実施手法・スケジュール・コスト・体制)があり、コストの増加、スケジュールの遅延等で計画変更を余儀なくされた。
		1	事前計画またはその実施過程に問題があり、コストの大幅な増加が生じた。【事前計画の50%以上の増加】 またはスケジュールの大幅な遅延(事業の完了が平成29年3月31日を越える(注1))が生じた。

《注1》複数年研究については、「事業の完了が平成30年3月31日を越える」とする。

(3) 達成 目標	事業の 実施 結果	5	事前計画の目標値を大きく上回って達成することができた。【達成状況120%以上】
		4	事前計画の目標値を達成することができた。【達成状況100%以上～120%未満】
		3	事前計画の目標値をやや下回った。【達成状況80%以上～100%未満】
		2	事前計画の目標値を下回った。【達成状況60%以上～80%未満】
		1	事前計画の目標値を大幅に下回った。【達成状況60%未満】 または、達成値が明確でなく達成状況が判定できない。
	事業の 成果・ 波及	5	事前計画の目標値を大きく上回って達成することができた。【達成状況120%以上】 または、目標値の達成【達成状況100%以上】に加えて、想定外の成果の波及効果があった。
		4	事前計画の目標値を達成(達成状況100%以上～120%未満)することができた。または、目標値をやや下回った(達成状況80%以上～100%未満)が、想定外の成果の波及効果があった。
		3	事前計画の目標値をやや下回った。【達成状況80%以上～100%未満】 または、目標値を下回った【達成状況60%以上～80%未満】が、想定外の成果の波及効果があった。
		2	事前計画の目標値を下回った。【達成状況60%以上～80%未満】
		1	事前計画の目標値を大幅に下回った。【達成状況60%未満】 または達成値が明確でなく達成状況が判定できない。
(4) 情報 発信	事業の 結果	5	事前計画の目標値を大きく上回って達成することができた。【達成状況120%以上】 または、目標値の達成【達成状況100%以上】に加えて、外部の大きな反響または高い評価を受けた。(表彰、専門誌・新聞等に取り上げられるなど)
		4	事前計画の目標値を達成することができた。【達成状況100%以上～120%未満】 または、目標値をやや下回った【達成状況80%以上～100%未満】が、追加的に、計画外の手法(自ら行うもの又は外部機関が行うもの)で広報を行うことができた。
		3	事前計画の目標値をやや下回った。【達成状況80%以上～100%未満】 または、目標値を下回った【達成状況60%以上～80%未満】が、追加的に、計画外の手法(自ら行うもの又は外部機関が行うもの)で広報を行うことができた。
		2	事前計画の目標値を下回った。【達成状況60%以上～80%未満】
		1	事前計画の目標値を大幅に下回った。【達成状況60%未満】 または、達成値が明確でなく達成状況が判定できない。
	競輪・オート レース補助金 による事業 であること	5	事前計画の目標値を大きく上回って達成することができた。【達成状況120%以上】 または、目標値の達成【達成状況100%以上】に加えて、計画外の自らのオリジナルな手法で広報を実施、または外部機関(新聞等)に大きく取り上げられた。
		4	事前計画の目標値を達成することができた。【達成状況100%以上～120%未満】 または、目標値をやや下回った【達成状況80%以上～100%未満】が、追加的に、計画外の手法(自ら行うもの又は外部機関が行うもの)で広報を行うことができた。
		3	事前計画の目標値をやや下回った。【達成状況80%以上～100%未満】 または、目標値を下回った【達成状況60%以上～80%未満】が、追加的に、計画外の手法(自ら行うもの又は外部機関が行うもの)で広報を行うことができた。
		2	事前計画の目標値を下回った。【達成状況60%以上～80%未満】
		1	事前計画の目標値を大幅に下回った。【達成状況60%未満】 または、達成値が明確でなく達成状況が判定できない。
(5) 自己評価の体制		5	外部委員が参加する評価委員会で評価が実施され、記録(議事録)から評価過程等が確認できる。
		4	団体内部に組織された評価委員会で評価が実施され、記録(議事録等)から評価過程等が確認できる。または、委員会形式ではないが、何らかのかたちで利用者や参加者などの幅広い関係者、外部の第三者が加わった評価を実施し、記録(議事録等)から評価過程等が確認できる。
		3	委員会形式ではないが自らの事務局内部に組織上の評価体制があり、記録(議事録等)から同体制で実施された評価過程等が確認できる。
		2	本事業の担当者が単独で評価し、団体責任者が決裁するなど、評価について議論する場が設定されていないが、評価過程等が記録で確認できる。
		1	担当者のみで評価した。または、議事録など、評価の実施過程等を示す記録がない。

2. 申請事業 3. 補助事業実施の必要性（意義）

2. 申請事業 3. 補助事業実施の必要性（意義）

<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <交付申請> 別紙・JKA補助事業 平成28年度 事前計画／自己評価書(2/5) </div>									
2. 申請事業								助事業 種別表	
補助事業名				事業 形態		<input type="text"/>			
事業項目名				公益目的事業実施		<input type="text"/>			
事業概要				種別		区分		<input type="text"/>	
事業概要				当該事業に關し、他の団体に對する補助申請 又は補助申請予定の有無					
種別				現年度 要望		年度 / 月		団体名称	
継続要望				年度 / 月		年度 / 月		年度 / 月	
事業費総額				事業コード		<input type="text"/>			
補助金 交付申請額				補助対象 経費総額		補助率		<input type="text"/>	
委託事業の有無				委託 比率		委託調査の有無		委託 比率	
委託想定先				1		2		3	
アドレス(フリント)				<input type="text"/>					

3. 補助事業実施の必要性(意義)									
目的								効果	

○補助事業実施の必要性を、最終的に解決を目指す社会的課題及び受益者(ニーズ)との関係で整理してください。
 補助事業の結果(アライアット)・成果(アライアム)により、(2)の補助事業の直接的な目的を達成し、最終的には、社会的課題が改善、解消、解決等された社会等の状況(目指す姿)の実現 (1)の補助事業を最終的に、目指す姿)を実現する。

(1)補助事業が最終的に目指すこと

社会的課題の現状、この課題を最も最終的に目指す姿(課題が改善、解消、解決等された社会等の状況)を記入してください。

補助事業が最終的に目指すこと(社会的課題の改善、解消、解決等)	
社会的課題の現状	<input style="width: 100%; height: 100%;" type="text"/>
目指す姿	<input style="width: 100%; height: 100%;" type="text"/>

(2)補助事業の直接的な目的

補助事業の結果(アライアット)、成果(アライアム)の直接的な効果により達成を目指す。補助事業の直接的な目的を記入してください。

補助事業の直接的な目的	
	<input style="width: 100%; height: 100%;" type="text"/>

4. 補助事業の事前計画（計画変更後）

(別添2)	JKA補助事業 平成28年度 事前計画／自己評価書(3/5)	計画変更用								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">用途</td> <td style="width: 35%;"></td> <td style="width: 15%;">補助事業区分</td> <td style="width: 35%;"></td> </tr> <tr> <td>経費取組品目表</td> <td>補助事業区分 220-</td> <td>事業区分名称</td> <td></td> </tr> </table>	用途		補助事業区分		経費取組品目表	補助事業区分 220-	事業区分名称			
用途		補助事業区分								
経費取組品目表	補助事業区分 220-	事業区分名称								
4. 補助事業の事前計画（計画変更後）										
補助事業（交付申請時の事前計画からの変更箇所を記入）										
(1) 受託者 (法人名)										
(2) 事業内容 (変更理由)										
事業の必要性 及び継続性の 必要性										
事業の 必要性										
【予算】 【事業の完了時期】 [平成 年 月 日] 【予算】 初年度収支予算事業の区分 【スケジュール】 初期、スケジュール表の区分										
実施 計画										
実施 体制										
効果・ 成果	効果・ 成果	効果・ 成果								
(3) 継続 評価	効果・ 成果 の 達成・ 状況	効果・ 成果 の 達成・ 状況								
効果・ 成果 の評価	効果・ 成果 の 達成・ 状況	効果・ 成果 の 達成・ 状況								
継続 評価 結果	効果・エス シー・I評価 結果による考 察で示したこ と									
(5) 自己評価の 体制										

事業終了後に自己評価④／⑤／⑤を実施してください。

事前計画／自己評価書(4／5)・(5／5)

(4／5)

(a) 個別項目評価
(b) 総合評価

5. 補助事業の自己評価

<自己評価1回目>

別紙・JKA補助事業 平成28年度 事前計画／自己評価書(4／5)

5. 補助事業の自己評価

(a) 個別項目評価

●個別項目の評価について、(8／8) 4. 事業計画 の達成状況等を参照し、分等・評価してください。

(1) 受給者 (2) 事業内容	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)			達成
事業の計画 達成状況 事業の 達成状況	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)			達成
事業計画 (継続)	達成状況	達成状況	具体的な内容	達成
(3) 事業 内容	達成状況	達成状況	具体的な内容	達成
事業の 達成 状況	達成状況	達成状況	具体的な内容	達成
(4) 事業 内容	達成状況	達成状況	具体的な内容	達成
事業の 達成 状況	達成状況	達成状況	具体的な内容	達成
(5) 事業 内容	達成状況	達成状況	具体的な内容	達成
事業の 達成 状況	達成状況	達成状況	具体的な内容	達成
(6) 事業 内容	達成状況	達成状況	具体的な内容	達成
事業の 達成 状況	達成状況	達成状況	具体的な内容	達成
(7) 自己評価 の 評価				総合 評価

(b) 総合評価

●(a) 個別項目の評価から達成状況等を振り返り、事業全体を評価してください。

1. 事業計画の 達成が「達成状況」 の達成状況に 反映した、事業 計画について 達成(半額)	
2. 達成している 達成、改善すべき 達成	
3. その他、ア ーに該当しない 達成(半額)	

(5／5)

(c) 事業の促進・阻害
要因の自己分析

5. 補助事業の自己評価

<自己評価1回目>

別紙・JKA補助事業 平成28年度 事前計画／自己評価書(4／5)

(c) 事業の促進・阻害要因の自己分析

●事業の目標達成を促進した、あるいは阻害した要因について、「要因分類」(1)～(15)の「促進」または「阻害」欄に「+」を記し、
要因の内容をa欄に、阻害要因への対応あるいは今後この分析結果をどう活かすかをb欄に、それぞれの要因分類の番号
(1)～(15)を付して、具体的に記入してください。

●促進または阻害要因がない場合には、(16)の欄に「+」を記してください。

事業の促進・阻害要因の自己分析			
促進	阻害	要因分類	
		a. 促進または阻害要因の具体的な内容	b. 対応、今後この分析結果をどう活かすか。
内部 要因		(1) 経費	
		(2) 実施体制 (人員、関係機関 の協力等の確保)	
		(3) 資料調達 (事業実施に必要 な物資等の確保)	
		(4) 実施期間 (事業終了までに 要する期間)	
		(5) 事業運営のノウハウ (経験、ノウハウ、 資金管理等)	
		(6) 設計性 (実施に 要する期間)	
		(7) その他	
外部 要因		(8) 実施者の 規模・ニーズ	
		(9) 実施体制以外 の団体等の協力・支援	
		(10) 関連法制度 の変更	
		(11) 利害関係者 (実施者以外の 関係への対応)	
		(12) 災害の発生 (地震、洪水等)	
		(13) 関係の技術 開発	
		(14) 競合するサー ビス・事業の出 現	
		(15) その他	
		(16) 特になし	

(4／5)及び(5／5)の評価様式は、『RING！RING！プロジェクト』Web サイト内、
「事務手続要領・提出書類」の各事業分野の「完了報告書」よりダウンロードしてください。

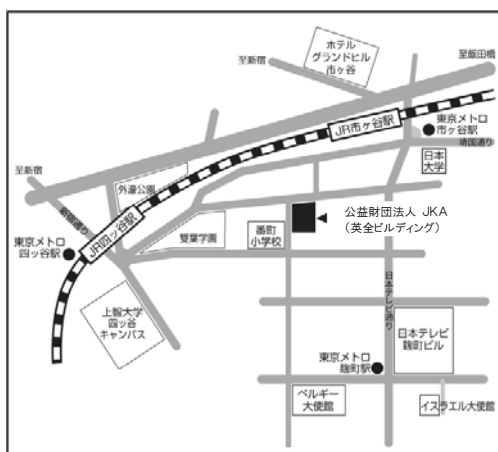
完了報告書には、「事前計画／自己評価書」
(1／5)～(5／5)の全ページを添付してください。

※計画変更を行った場合は、(3／5)計画変更用 も併せて添付してください。



RING!RING! プロジェクト

競輪 & オートレースの補助事業



問い合わせ先

公益財団法人 JKA

〒102-8011 東京都千代田区六番町4番地6

[補助事業部]

補助事業統括室

TEL:03 (3512) 1279 FAX:03 (3512) 1274

問い合わせ時間 平日の 9時30分 から 12時まで

13時 から 17時30分まで

JKA補助事業ホームページアドレス

<http://ringring-keirin.jp>